

環境技術研究所ニュース：

環境技術研究所研究員が廃棄物資源循環学会で発表

2019年9月下旬に高橋研究員と岩崎研究員が仙台の東北大学での廃棄物資源循環学会研究発表会に参加・発表しました。

岩崎研究員は「焼成による下水汚泥焼却灰からのリン酸塩回収」で、また、高橋研究員は「酸・アルカリ抽出における下水汚泥焼却灰中リンの挙動」で、それぞれ発表を行いました。当日は参加者も多く、活発な意見交換を行いました。関連する発表群は一部紹介しますと、以下のように多岐にわたりました。

C3 無機性廃棄物のセッション

C3-1-O セメント原料化を志向したガラスからのナトリウム除去技術の開発 p.203 三菱マテリアル○高橋憲史, 林浩志

C3-2-O リサイクル製品の利用拡大に向けた要因分析 p.205 復建調査設計○三上貴士, 高濱繁盛, 広島県資源循環協会山下俊之

C3-3-O 再生石膏粉の有効利用ガイドラインの地盤改良工事等への適用について p.207 泥土リサイクル協会○西川美穂, 国立環境研究所遠藤和人, 福岡大学佐藤研一

C3-4-O アルミニウムドロス残灰の実用的資源化 p.209 東北大学○山下毅, 平木岳人, 三木貴博, 長坂徹也, スズムラ鈴村隆広

C3-5-O 木質バイオマス燃焼灰の地盤改良材としての適用性に関する基礎的実験 p.211 三重県工業研究所○前川明弘, 大栄工業川岡孝督, 三重県保健環境研究所奥山幸俊, 三重県津地域防災総合事務所坂口貴啓, 三重県工業研究所市川幸治, 松浦真也, 舟木淳夫

C3-6-O 鉄鋼スラグからのカルシウムの選択的抽出と高純度炭酸カルシウム及び水質浄化材料の合成 p.213 埼玉工業大学山口史恵, ○本郷照久

C3-7-P 焼成による下水汚泥焼却灰からのリン酸塩回収 p.215 四日市大学高橋正昭, ○武本行正, 岩崎誠二, 三重中央開発結城英二

C3-8-P 竹炭を使用したセメント硬化体の圧縮強度及び電気特性評価 p.217 三重県工業研究所○市川幸治, 前川明弘, 松浦真也, 矢田喜大

C3-9-P Low-E ガラスからのガラス回収技術の開発 p.219 東京都立産業技術研究センター○亀崎悠, 中澤亮二, 平井和彦

C3-10-P 廃棄物からのリン再資源化に向けた微細藻類の活用 p.221 鳥取大学○星川淑子, 安倍大志, 西村龍起, 島田大地

C4 有機性廃棄物・有価物回収のセッション

C4-1-O 有姿もみ殻燃焼温度・時間による燃焼灰の物性変化の考察 p.223 富山県立大学○立田真文, 関藤良子

C4-2-O 使用済み紙おむつ再資源化に関する検討～混入した汚染化学物質の安全性評価 (その1)～ p.225 ユニ・チャーム○今井茂夫, 和田充弘

C4-3-O 一般廃棄物不燃・粗大ごみ中の希少金属量の推定 p.227 北海道大学○高橋悠, 松藤敏彦, 松尾孝之, 東條安匡

C4-4-O ディスポーザー排水処理槽汚泥からのエネルギー回収可能性に関する基礎的検討 p.229 北九州市立大学○金友舞香, 藤山淳史, 松本亨

C4-5-O 生ごみ堆肥化装置における IoT センサを利用した堆積状況把握と運搬効率化 p.231 北九州市立大学○前田桜我, 松本亨, 藤山淳史

C4-6-O 畜産廃棄物縦型堆肥化装置における熱回収の検討 p.233 岐阜大学○柏谷有人, 小林信介, 板谷義紀, 中川二彦, 須網暁, 愛知工科大学渡部吉規

C4-7-P 酸・アルカリ抽出における下水汚泥焼却灰中リンの挙動 p.235 四日市大学○高橋正昭, 武本行正, 三重中央開発結城英二

C4-8-P テオフィリンを配位子としたマイクロ粒子型パラジウム吸着剤 p.237 神奈川大学○貝掛勝也, 株式会社 不動テトラ高田将文, 神奈川大学金仁華

C4-9-P 昆布非可食部を原料とした活性炭製造の検討 p.239 函館工業高等専門学校○田中太, 今津遼也, 寺門修

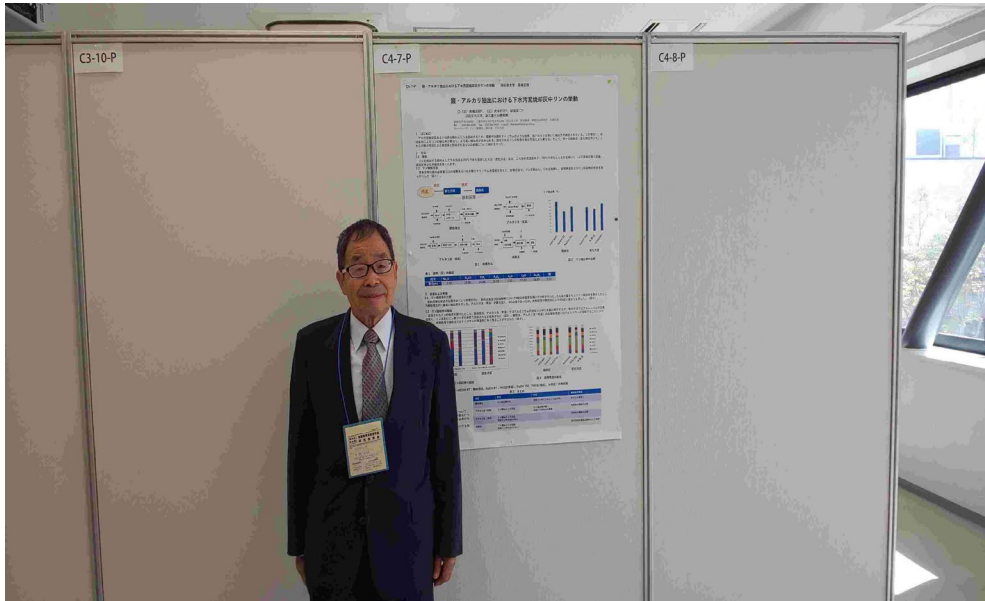
C4-10-P 道南産昆布の仮根を用いた金属イオンの吸着平衡 p.241 函館工業高等専門学校○今津遼也, Universite de Caen Normandie Moudhak Fatima, 函館工業高等専門学校寺門修

C4-11-P 食品製造工場で発生する排水油の再資源化を伴う処理プロセスの構築 p.243 イーシステム谷山暁進, 須藤啓二, 岡田稔永, 福田理奈, 大阪府立大学岡本和也, ○徳本勇人

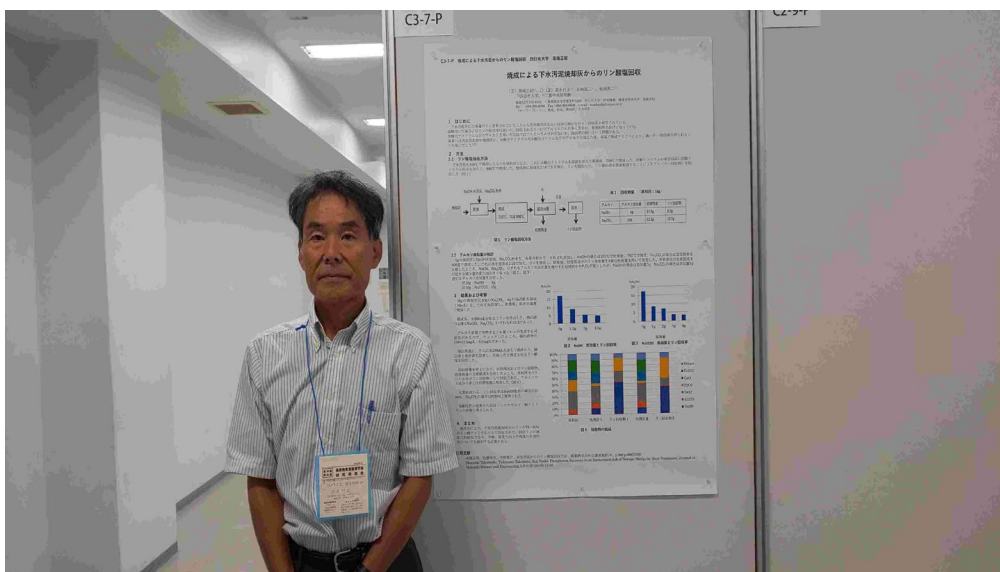
C4-12-P アミン添加熱水条件下における炭素繊維強化プラスチックに含まれる熱硬化性樹脂の 分解におよぼす操作因子の影響 p.245 中央大学○池谷孝, 遠藤純, 坂部淳一, 船造俊孝・・・以下省略

このように、多くの発表がなされ、研究発表は口頭発表169 編、ポスター発表85 編、国際ハイブリットセッション35 編、計289 編となっていました。この他に、国際シンポジウム（循環経済におけるプラスチック資源管理）、11 の企画セッション、企業展示・市民展示等もありました。

また、廃棄物資源循環学会の設立30 周年になりましたので、この大会では学会30 周年記念式典と祝賀会もありました。30 周年記念式典は東北大学百周年記念会館川内萩ホールで開催され、学会30 年の歩みを総括するとともに来賓祝辞や感謝状の贈呈などもなされました。なお、見学会は「南三陸地区被災地復興全日コース（南三陸BIO 施設など）」、「仙台市沿岸地区被災地復興コース（南蒲生浄化センターと荒浜小学校）」および「仙台市近郊先進処理施設（J-NEX バイオプラント）」の3 コースが準備されましたが、参加しませんでした。



高橋研究員の発表ポスター前で



岩崎研究員の発表ポスター前で